

令和8年度 帯広市立東小学校の研究

1 研究主題

思考・判断・表現を可視化し、見取る授業づくり

～自己調整学習を基盤とした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

2 主題設定の理由

近年、文部科学省は「令和の日本型学校教育」の実現に向け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を求めている。個別最適な学びとは、児童一人一人の学習進度や特性に応じて学びを深めることであり、その実現には、児童自身が学びを調整する「自己調整学習」の視点が重要となる。

自己調整学習とは、児童が自ら課題を捉え、学習方法や内容を選択し、学びを振り返りながら次の学びへとつなげていく学習である。その中核には、「自己選択」や「自己決定」の場面が位置付けられ、児童が主体的に学びに関わることが求められる。

また、協働的な学びは、他者と関わることで多様な考えに触れ、自らの考えを深める学びであり、自己調整された個の学びとつながりながら深めることで、より質の高い学びが実現される。

本校の学校経営方針においても、「質の高い日常の授業実践」「指導と評価の一体化」が重点として示されており、「個別最適な学び」「協働的な学び」「自己調整する学び」の更なる充実が求められている。

これまでの研究により、児童の表現や交流の場面は充実してきたが、思考・判断・表現の評価については教師間で捉え方に差があり、「どの姿をもって評価するのか」が曖昧であるという課題がある。

そこで本年度は、自己調整学習の視点を取り入れた授業づくりを通して、児童の思考・判断・表現を引き出し、可視化し、共通の視点で見取ることにより、授業改善と評価の一体化を図ることとした。

3 研究のねらい

自己調整学習の視点を取り入れた授業づくりを通して、児童が自己選択・自己決定を行いながら学びを深め、その過程で表れる思考・判断・表現を可視化することで、教師が共通の視点で見取ることができるようにし、評価の妥当性と指導の質の向上を図る。

4 研究内容

(1) 思考・判断・表現を引き出すための課題設定と学習過程の工夫

児童が自己選択・自己決定を行う場面を意図的に設定し、自ら課題に向き合うことができるようにする。また、「課題→自分の考え→交流→振り返り」という学習過程の中で、選択・決定する場面を設定し、自己調整学習を促す授業づくりを行う。

(2) 思考・判断・表現を可視化するための表現活動の工夫

ノートやワークシート、対話、動きや作品、ICTの活用などを通して、児童の思考が見える形にする。特に、選択や決定の理由、学びの変化を表現させることで、自己調整の過程を可視化する。

(3) 思考・判断・表現を見取るための評価の視点と基準の明確化

自己選択・自己決定の過程や、その理由、学びの変容に着目しながら評価を行う視点を共有する。

評価基準の具体化や協議を通して、教師間の評価のずれを減らし、見取りの精度を高める。

5 研究方法

- ・全体研修およびブロック研修による理論と実践の往来
- ・研究授業および事前・事後研究による検証と改善
- ・日常実践の交流および評価のすり合わせ
- ・ICT機器を活用した学習過程の記録と振り返り

6 目指す姿

(1) 児童の姿

自ら学びを選択・決定し、他者と関わりながら考えを深め、主体的に学び続ける児童

(2) 教師の姿

児童の自己調整の過程を見取り、個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ授業を実践できる教師

7 まとめ

本研究では、自己調整学習を基盤として「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。その中で、思考・判断・表現の可視化と見取りに取り組むことで、児童の学びの質の向上と教師の指導力・評価力の向上を目指す。